



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



握手を交わす城土局長と古田岐阜県知事

森林づくりの推進に関する覚書を 岐阜県と中部森林管理局が締結！

(P2に関連記事)

主 な 項 目		
	○ 岐阜県と森林づくりの推進に関する覚書を締結	P 2
	○ 平成21年度中部森林管理局決算概要	P 2
	○ 風景紀行	P 6

岐阜県と森林づくりの 推進に関する覚書を締結

〔計画課〕 中部森林管理局と岐阜県は、

「岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書」を締結することとし、平成二十二年九月二日（木）、岐阜県庁において締結式を行いました。

岐阜県内の森林は約八十六万ヘクタールあり、そのうち民有林は六十八万ヘクタール、国有林は十八万ヘクタールとなっています。

農林水産省では、昨年十二月に十年後の木材自給率五十%以上を目標とした「森林・林業再生プラン」を策定するとともに、本年六月には、その目標を実現するため、「民有林と国有林が一体と



覚書に署名する城土局長（左）と古田岐阜県知事

なっており、効率的に路網整備や間伐等の森林整備に取り組むための森林共同施業団地の設定を推進すること」などを柱とした「森林・林業の再生に向けた改革の姿」を公表しました。

また、岐阜県は、全国に先駆けて「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」による民有林の施業の集約化や建設業界の林業への参入を促進する「林建協働」など、地域の森林・林業・木材産業の活性化を図るために先進的な取組を進めています。

このような状況の中、今回締結した覚書は、岐阜県内の森林の持つ多面的機能の持続的な発揮及び木材の安定供給等を目的として岐阜県内の国有林を所管する中部森林管理局と民有林を所管する岐阜県が連携・協力し、作業路網の整備や間伐等の森林整備に効果的に取り組む「森林共同施業団地」の設定等を進めることとしており、東海地方としては初めてのものです。

今後は、双方が協力しながら具体的な団地の設定に向け、情報交換や現地検討会の開催などを進めていきます。

平成二十一年度 中部森林管理局決算概要

〔経理課〕 去る九月三日（金）、平成二十一年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成二十一年度の決算は、森林の公益的機能の維持増進、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、財政の健全化に努めた結果、収支では十四億三千万円の収入超過となりました。

また、損益計算上では、三十五億三千万円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、新設住宅着工戸数が減少する中、間伐材の積極的な売り払いに努めたところであるが、木材価格の低迷などにより、前年度より四億三千万円減の三十億円となりました。

林野等売払代は、大型物件が少なくなったため、前年度より三億五千万円減の三億二千万円となり、自己収入全体では前年度より七億七千万円減の四十億二千万円となりました。

一方、一般会計からの受入金金は、治山事業の事業量が二十年度に比べて増加したこと等から、前年度より三十八億五千万円増の二百七十七億四千万円となりました。

また、借換借入金金は、前年度より七億七千万円増の百十八億三千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたことにより、給与経費等は前年度より五億円減の六十四億八千万円となりました。

森林環境保全整備事業費については、

地球温暖化防止等に資する森林整備を推進したことにより、前年度より二十八億四千万円増の八十一億三千万円となりました。

治山事業費については、二十年度に比べ、事業量が増加したこと等から、前年度より十四億五千万円増の百十九億九千万円となりました。

借入金に係る償還金・利子は、前年度より六億円増の百二十八億八千万円となりました。

以上の結果、四百四十五億六千万円の収入に対し、支出は四百三十一億四千万円で、十四億三千万円の収入超過となりました。

◆損益計算

売上高等の減少、減価償却費・資産除却損等の増加により、損益計算上の損失は前年度より七億九千万円増加して三十五億三千万円となりました。



決算概要の公表の様子



白駒池にて記念撮影

「指導普及課」九月四日（土）、小中学生の親子・家族を対象に、自然散策や登山、森林浴を通じ、親子・家族が一緒になって、北八ヶ岳の豊かな自然を満喫しながら、森林の役割について理解を深めてもらうことを目的とした「親子森林探検隊in八ヶ岳」を、十四組、総勢四十二名の親子・家族の参加を得て、南佐久郡佐久穂町の北八ヶ岳自然休養林において開催しました。

当日の北八ヶ岳周辺は、晴天に恵まれ、九月とは思えないほどの強い日差し



丸山の頂上に立つ登山コース参加者

が降り注ぐ中、参加者の皆さんは、スタート地点の麦草ヒュッテ（麦草峠）において、日本鹿による食害についての説明を受けた後、眺望が素晴らしい丸山・高見石までの登山コースと神秘的森が広がる白駒池周辺の自然散策と森林の学習コースに分かれ、原生林の中を歩きながら北八ヶ岳の大自然を満喫しました。

登山コースでは、親子・家族、また参加者同士が助け合いながら標高二千三百三十メートルの丸山や二千二百六十五メートルの高見石の頂に到達し、澄みきった青空のもと、目に飛び込んでくる周囲の山々や白駒池等の情景に、皆さんが驚きと感動の表情を浮かべていました。



楽しみながら池の周辺を散策

また、散策コースでは、麦草峠から白駒池まで、森林インストラクターによる森の学習やゲーム、池の周遊散策を楽しむながら、苔が作り出した緑のじゅうたんに彩られた幻想的な森の雰囲気や満喫し、親子が仲良く動植物に目を凝らしながら、自然とのふれあいを楽しんでいる姿が数多くみられました。

白駒池の湖畔では、下山した登山班の皆さんを散策班が出迎え、参加した全員が無事登頂を終えた達成感と、自然とのふれあいを満喫した満足感に浸りながら、帰路に着きました。



苗木に目印テープを付け替えるスカウトたち

中には冬期の積雪のために折れているものもあり、スカウトたちは、冬の厳しさを実感しながらも、生き残った苗木に頼もしさを感じながら、鎌で丁寧に草を刈り払い、苗木の目印テープを新しく付

「北信署」七月四日（日）、ガールスカウト長野県支部に所属する三十六名が戸隠山国有林内に設定されている「ガールスカウト第三の森」で下草刈りを行いました。

この森は、昨年ガールスカウト長野県支部が四十五周年を記念してブナ等の広葉樹を植栽しました。

私たちの森を育てる
ガールスカウトの森

各地からのたより

け替えました。

始めはすっかり草の中に埋もれていた苗木も顔を出し、作業を終えたスカウトたちの満足そうな表情を見ることができました。

また八月六日(金)から七日(土)にかけて、日本のガールスカウト運動九十周年記念戸隠インターナショナルキャンプ参加者(十三カ国)の内の二十五名が、同国有林内の「ガールスカウト第一の森」で間伐作業を行いました。

この森は、平成元年にガールスカウト長野県支部が、「森の管理を通じて環境について考え、勤労の大切さを知る」とを目的に設定し、ブナ等の広葉樹を植栽後、下刈、枝払い等の手入れを続けてきました。海外や日本各地から集ったスカウトたちは、慣れない手つきで、鋸を使ってブナを伐り倒す作業(間伐)を体験しました。スカウトたちは、作業が進むにつれて混み合ったブナの森に太陽の光が差し込む様子を見て、間伐の効果を実感していました。

その後、伐採したブナを用いて鉛筆立てなどを作成し、各々が良い土産として持ち帰っていました。

戸隠の森で開催された両プログラムを通じて、「自然をより深く知り、気付きや学びを得ることができた」というお礼の言葉が届けられました。

ボランティアと連携して 乗鞍岳山麓で外来植物 (セイヨウタンポポ)を除去

〔中信署〕

当署では、地域発案により、乗鞍岳のエコライン沿いでセイヨウタンポポの除去作業を実施しています。

今年度は、七月二十一日(水)に長野県生会松本支部九名、八月十一日(水)には、募集により参加した松本市の小学生を始め一般参加者十四名、長野県自然保護レンジャー二名、両日ともグリーンサポータースタッフ、職員も加わり総勢四十三名の参加となりました。

両日とも天候に恵まれ、道路脇に黄色く咲いているセイヨウタンポポの見分け方の指導を受けた後、四班に分かれ距離五キロメートルの間において、約七百本のセイヨウタンポポを除去しました。



除去作業に一生懸命の小学生

セイヨウタンポポは、アルカリ性に強く、単為生殖により増え、日照時間に左右されずに通年開花し、種子も小さいことから繁殖力が強く、ニホンタンポポを始めとする乗鞍山麓の貴重な高山植物の脅威になっていることから、ボランティアによる除去作業を毎年行い、少しずつ成果が出て来ているところです。今後は、ハルザキヤマガラシ、シロツメクサ、フランスギク、アラゲハンゴンソウ、ブタナ等の外来植物の除去も検討し、高山植物の保護に更に取り組んでまいります。

天然県立自然公園内の 危険木伐倒除去作業

〔名古屋造林素材生産事業協会〕

〔飛騨署〕八月二十一日(土)、名古屋造林素材生産事業協会の飛騨支部会員十一名が「天然県立自然公園」内の自然観察歩道沿いの枯損木の伐倒除去・整備をボランティア作業で行いました。

天然一帯は、高層湿原やブナの原生林など豊かな自然が残ることから入林者が年々増加しています。歩道沿いには老朽して枯死した大径木が立っており、安全な通行のためこれらを除去して欲しいとの地元協議会等からの要請に、大径木伐採の技術を持つ造林素材協会が応えたものです。

当日は下界の猛暑とは別世界の涼風を期待したものの、全員、汗だくでの危険



暑い中での危険木伐倒除去作業

「じょうこうじ響きの森」に住む 野鳥を学び巣箱作りを体験しよう

〔生物多様性(森林と野鳥)〕

〔名古屋事務所〕九月四日(土)、平成二十二年「第三回森林ふれあい講座」



話に聞き入る参加者



完成した巣箱を手に参加者全員で記念撮影

を瀬戸市の森林交流館で開催しました。当日は九月とは思えないほどの暑さでしたが、四組の親子連れを含む十二名の参加がありました。

初めに尾張自然観察会の先生から、定光寺自然休養林で見られる野鳥の生態や巣の作り方のお話を聞きました。参加者は野鳥の生態のおもしろさに真剣に聞き入っていました。

その後、事務所職員の指導のもと、スギの間伐材を使い小鳥の巣箱作りを行いました。

巣箱作りでは、普段使ったことのない「のこぎり」や「金槌」を一生懸命に使いこなし小鳥の巣箱を見事に完成させていました。

参加者からは「スズメも入りますか?」などの質問の外、「小鳥が入るのが楽しみ」などの質問や感想が寄せられました。

シリーズ 現場最前線

チームワーク良く業務を実行 東信森林管理署 御代田作業班

御代田班は、浅間山を囲む軽井沢・御代田・小諸の三森林事務所を受け持ち、現在、基職二名と臨時作業員で作業にあたっています。

浅間山のなだらかな裾野は観光地としてリゾート開発が進んでいることから、国有地に接する箇所は、別荘地・住宅



御代田班の皆さん

地・道路がほとんどで、境界巡検の距離も長く、境界管理には気を遣っています。隣接住宅等へ危険を及ぼす恐れのある場合など、緊急に対応しなければならぬ時も多々あり、そのような場合、最優先で作業にあたっています。特に、平成十九年の台風9号の災害の際には、過去の台風災害の経験を活かし、被害対策に全力で取り組みました。

御代田班はチームワークが良く、忙しい時でも、「やると決めた仕事はきちんとやる」という強い意識の下で、安全に段取りよく作業を進めています。夕方、事務所に疲れた様子で帰って来ますが、その中にもすがすがしい顔が垣間見られます。今後も、頼りになる御代田班と共に安全に効率よく業務に取り組んでいきたいと思っています。

人事・業務の予定

◎国有林野事業労働衛生週間

10月1～7日

◎ボランティア会議

10月1～2日 松本市

◎名古屋シティフォレスト事業

10月2日 愛知所管内

10月14日 愛知所管内

◎事業担当部長会議

10月4～5日 林野庁

◎金曜会国有林視察

10月4日 東信署管内

◎第3回王滝森林鉄道

フェスティバル2010

10月9～10日 王滝村

◎低コスト路網等現地検討会

10月12～13日 中信署管内

人のうごき

林野庁人事(抄)

九月一日付

▽中部森林管理局企画調整室監査官(名古屋事務所副所長)(中部森林管理局木曽森林管理署南木曽支署長)

廣田 祐一

▽中部森林管理局木曽森林管理署南木曽支署長(中部森林管理局富山森林管理署次長)

相馬 一之

▽中部森林管理局富山森林管理署次長(中部森林管理局東濃森林管理署総務課長)

長瀬 貢

中部森林管理局人事

九月一日付

▽東濃森林管理署総務課長(計画部計画課付(名古屋事務所))

那須 正彦

▽企画調整室付(企画調整室監査係長)

井上日呂登

▽木曽森林管理署笹川森林事務所森林官(企画調整室情報管理係長)

彦瀬 卓也



旧中山道 (妻籠宿・馬籠宿)

〔南木曾支署〕 長野県木曾谷の南部に位置する木曾郡南木曾町と岐阜県中津川市を結ぶ旧中山道 (妻籠宿・馬籠宿) 沿いの町指定名勝が男滝・女滝です。

旧中山道は江戸を起点とする五街道の一つで、江戸から京都を結ぶ重要な街道でした。

名称の由来は、日本国土の中間の山道ということで中仙道とも記されましたが一七一六年、徳川幕府は中山道と名称を統一したと言われています。

妻籠から馬籠に至る七キロメートルの街道は、家族連れでも気軽に歩けるハイキングコースとして人気があり、最近では外国人旅行者にも広く知られ訪れる者が増えています。

江戸時代からの日本情緒を残し、その魅力は旧街道にある「男滝・女滝」や背景となつている樹齢百年の木曾ヒノキなどの美林にあります。特に木曾に街道が

開かれて以来、旅人に名所として親しまれ、憩いの場であつたと伝えられている「男滝・女滝」は、吉川英治氏の著書「宮本武蔵」の舞台にもとりあげられています。

滝に向かって左側が男滝で落差十メートルの滝幅の広い滝です。

右側が女滝で女らしくやや線の細い滝です。

また、南木曾町妻籠宿から馬籠峠に至る旧中山道沿いは、木曾ヒノキ、サワラ、ヒバなどの天然の林があり、この一帯の国有林は、国の重要伝統的建造物群落保存地区及び県の郷土環境保全地区に指定され、自然探勝、憩いの場として、レクリエーションの森 (風致探勝林七十四ヘクタール) に選定されています。

◆アクセス

(所在地)

長野県木曾郡南木曾町大妻籠

○車でお越しの場合

中央自動車道

中津川 I C を降り、国道十九号線を南

木曾町方面へ三十分

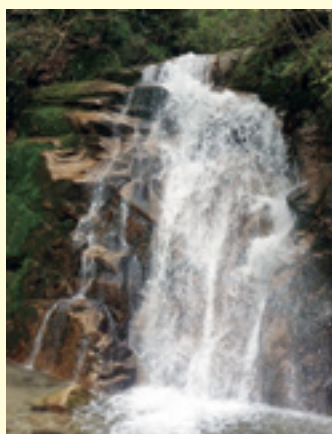
長野自動車道

塩尻 I C を降り、国道十九号線を南木

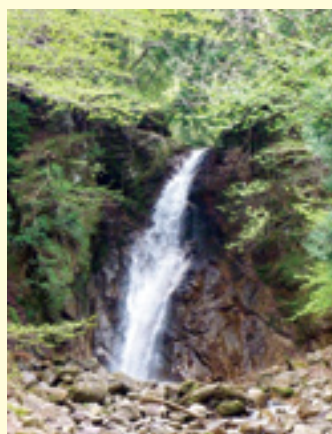
曾町方面へ二時間

○公共交通機関をご利用の場合

J R 中央西線南木曾駅で下車し、バスまたはタクシーで十五分



男滝



女滝



眼下の妻籠宿と馬籠峠方面を望む (妻籠城跡より)



妻籠宿と背景林の伊勢山 (国有林)



観光客で賑わう妻籠宿